

6/3(土) まいど! 倫理号です。やっつ梅雨入りとかで思えば、大雨洪水警報と
電車うまも回りません。まあ今は天気だけでない企業も同じでは?

草刈りアホ一鳥

2020.6.13~6.19

今週の

倫理

6月のテーマ | リーダーの自覚

1181号

六月度の一鳥「ゴジラめど草刈り終へー丸はどか」

コマは回転しますが、いずれは止まります。一方、歯車は自分の力では回りませんが、かみ合う他の歯車と共に回り続けます。さらに、その力を次の歯車へ受け渡します。

*

全国数カ所の都道府県倫理法人会では、後継者の育成を一年かけて行なう、「後継者倫理塾」が開催されています。年度ごとに開塾し、十数名の塾生が諸先輩経営者から倫理経営を学び、自身の人間性を磨き、経営力を培います。塾生にとっては、この塾の課程の修了が終着点ではなく、その後からが本番となります。ある修了生のエピソードを紹介します。

S氏は、祖父が創業し、現在は父が社長となっている建設会社の専務です。大手ゼネコンで働いた後、父の下へ就社。待っていたのは、想像とは真逆の現実でした。会社では社長である父と常に衝突。家に帰れば妻とは喧嘩が絶えず、S氏が企画した流行りのデザインの住宅は、閑古鳥が鳴いていました。どうにもならない中で、父から「後継者倫理塾」への入塾を勧められたS氏は、渋々入塾したのでした。

塾の講座では、心理テストがありました。判定は「傲慢。わがまま。自己中心的」でした。その結果にS氏は不満で一杯でした。それを妻に告げると、「テストの結果は、その通りだよ。わかっているの!」と猛撃されたのです。ひどく嘆く妻の姿を見て、S氏はこれまでの自分を顧みました。甘やかされて育った子供の気持ちのままに、い

歯車のように 次へと力を受け渡す



つも嫌なことから逃げてきた自分がいました。(これではいけない)と反省したS氏は、真摯に塾と向き合うようになったのです。

塾に通う中で、理解できた父の言葉がありました。「俺たちは技術屋だ」と言っていたことです。純粹倫理を学び、父の仕事ぶりに目が向くようになった時、「主役はお客様だったのだ」と気づきました。会社を訪れたお客様の幸せな思いを形にすることが、自分たちの仕事だと知ったのです。それまで、「儲かる家を作るべきだ」と主張していたS氏。父と衝突するのは当然でした。また、企画が失敗した原因も、自分の考えの浅はかさであることに気づいたのでした。

塾が修了した今、父への思いは反発から尊敬へと変わりました。S氏が「後継者倫理塾」を介し、父から受け取った言葉があります。「創業者の思いを継ぎ、人に感謝し、人へ奉仕する心こそが、経営の原点である」。現在S氏は、「後継者倫理塾」の運営委員となり、後輩の指導に力を注いでいます。

会社では専務としての自覚を深め、父の右腕となって事業を遂行しています。今では「父のように、一步一步堅実に、経営の道を歩んでいきます」と、力強く述べるS氏です。

すっかりとかみ合った歯車が力強く回転し、周りの歯車を動かすように、周囲の人を巻き込み大きな働きをする、リーダーとなりたいたいものです。そのために必要なのは、自分という歯車の原動力である「もと」に心を向けることなのです。